



メッセージランナ
作成ソフト
KP3S・KP3H用マニュアル

AKP38153
V1.0 第1版



このマニュアルは、Adobe Acrobat を使って制作されています。
Adobe、Adobeロゴ、Acrobatは、Adobe Systems Incorporated
(アドビシステムズ社) の商標です。

この度はメッセージランナ作成ソフト**AKP38153**をご購入頂きありがとうございます。

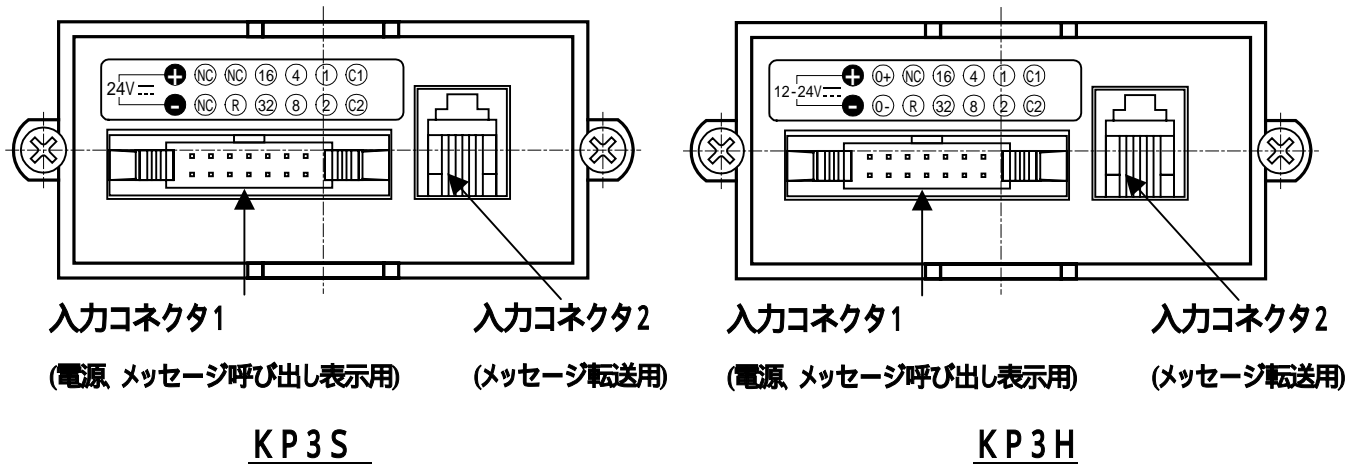
メッセージランナKP3S及びKP3Hに本作成ソフトをご使用になる場合は、ご使用前に本マニュアルをお読み頂き正しくお使いください。

KP3S及びKP3H用マニュアル

目次

1. KP3S、KP3H 本体各部の名称
2. 結線
 - 2 - 1. 入力コネクタ1(電源・メッセージ呼び出し用:松下電工製 AXM214011 14ピン MILコネクタ)
 - 2 - 2. 入力コネクタ2(メッセージ転送用:専用転送ケーブル)
 - 2 - 3. メッセージ呼び出し方法
3. 作成ソフト画面
 - 3 - 1.
 - 3 - 2. 各メニューボタンの名称と働き
 - 3 - 3. メンテナンス画面の各操作ボタンの名称と働き
4. メッセージの作成と本体への転送について
 - 4 - 1. メッセージファイルの作成方法
 - 4 - 2. 通信条件
 - 4 - 3. メッセージランナコンバージョンソフトの立ち上げ
 - 4 - 4. メッセージランナ機種選択
 - 4 - 5. メッセージ表示方向の選択
 - 4 - 6. 使用ポートの設定と条件設定
 - 4 - 7. メッセージの転送
5. ヘルプメニューについて

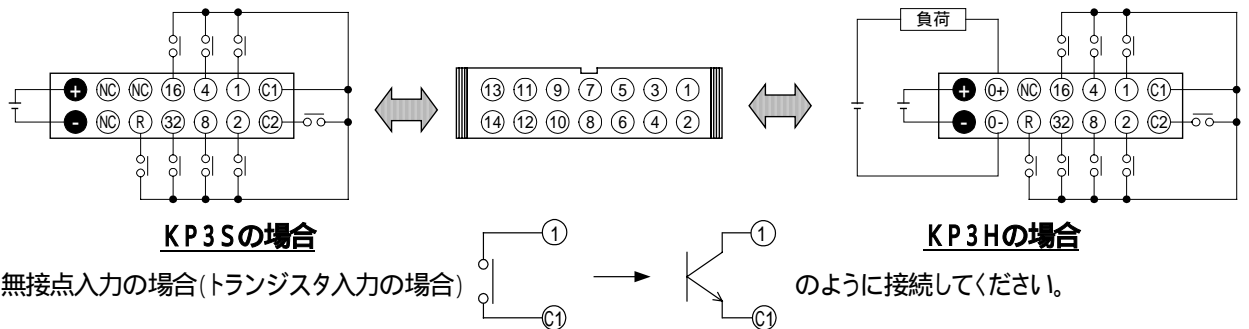
1. KP3S, KP3H 本体各部の名称(裏面):



2. 結線: 本体の結線について(必ず電源をOFFした状態で結線をしてください。)

2 - 1. 入力コネクタ1(電源・メッセージ呼び出し用: 松下電工製 AXM214011 14ピン MILコネクタ) 端子銘板とコネクタのピンとの対比を示します。

・端子名称



(シーケンサ等のトランジスタ出力をご使用の場合出力トランジスタは、コレクタ電圧V_{ceo} 50V、漏れ電流 100μA以下のものをご使用ください。)

(C1)(C2): コモン端子 C1端子は内部のGNDと接続しています。

C2端子はメッセージの呼び出し方式を「指定呼び出し方式」と「逐次呼び出し方式」の2通りを切替ます。

(32)(16)(8)(4)(2)(1): メッセージ表示呼び出し端子 指定読み出し方式の場合は (32)(16)(8)(4)(2)(1) 6端子を使用します。

逐次読み出し方式の場合は(1) 端子のみ使用します。

(R): リセット端子 ONすると内部をリセットします。OFF後00番のメッセージに戻ります。(逐次呼び出しの場合)

*リセット端子入力中は表示が暗くなりますが、異常ではありません。

(NC): 内部未接続端子

(0+), (0-): トランジスタ出力端子 (最大 0.1A, 30V DC: KP3Hのみ)

(+), (0): 電源入力端子 KP3S: 24V DC or 5V DC KP3H: 12-24V DC or 5V DC

* 結線時の注意: 5Vタイプは逆接続防止回路を内蔵していません。電源接続時には十分ご注意ください。

・外部接続にはバラ線ケーブル付きコネクタ AKP3835(1m)、AKP3837(3m)を推奨します。(別売)

・使用コネクタ及び結線用ケーブル

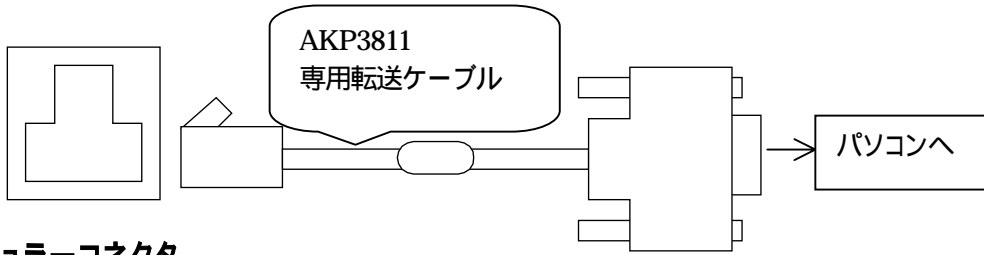
本体側コネクタ(AXM214011 松下電工製: 14P MILコネクタ)に対応したコネクタをご使用ください。

推奨コネクタ: AXM114415(松下電工製14芯フラットケーブルタイプ(ストレインリリーフ付き))

<本体には付属していませんので別途ご購入ください。>

2 - 2 . 入力コネクタ2(メッセージ転送用:専用転送ケーブル)

専用転送ケーブルをパソコンのDサブ9ピンとメッセージランナ本体のモジュラーコネクタとに接続します。



モジュラーコネクタ

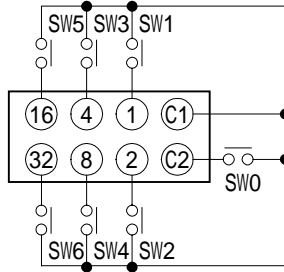
注 1)専用転送ケーブルをパソコンのDサブ9ピンとメッセージランナ本体のモジュラーコネクタとに接続します。

(専用転送ケーブル: AKP3811(1m)、AKP3812(2m)、AKP3813(3m)、AKP3814(4m)タイプもあります。)

2 - 3 . メッセージ呼び出し方法

a. 指定呼び出し方式

本体内蔵のメッセージを (32)(16)(8)(4)(2)(1) の6種類のピンを直接指定(ON / OFF)することにより呼び出します。
(結線例)



図の通り (C2) 端子は OFF(SW0は OFF, 又は無接続)します。

(32)(16)(8)(4)(2)(1) の6ピン(SW6 ~ SW1に対応)を ON / OFFしてメッセージの選択を行います。

メッセージの選択は下表によります。(メッセージ数: 64メッセージ)

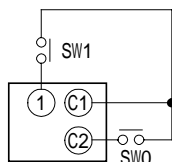
(32)(16)(8)(4)(2)(1) が6桁の2進数に対応しています。(SWはONを1, OFFを0とします。)

メッセージ (10進数)	(32)	(16)	(8)	(4)	(2)	(1)
	SW6	SW5	SW4	SW3	SW2	SW1
00	0	0	0	0	0	0
01	0	0	0	0	0	1
02	0	0	0	0	1	0
...
61	1	1	1	1	0	1
62	1	1	1	1	1	0
63	1	1	1	1	1	1

b. 逐次呼び出し方式

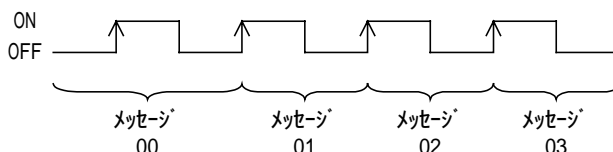
本体内蔵のメッセージが ピンをON / OFFすることにより 00 から順番に表示していきます。

(結線例)



図の通り (C2) 端子を ON します。

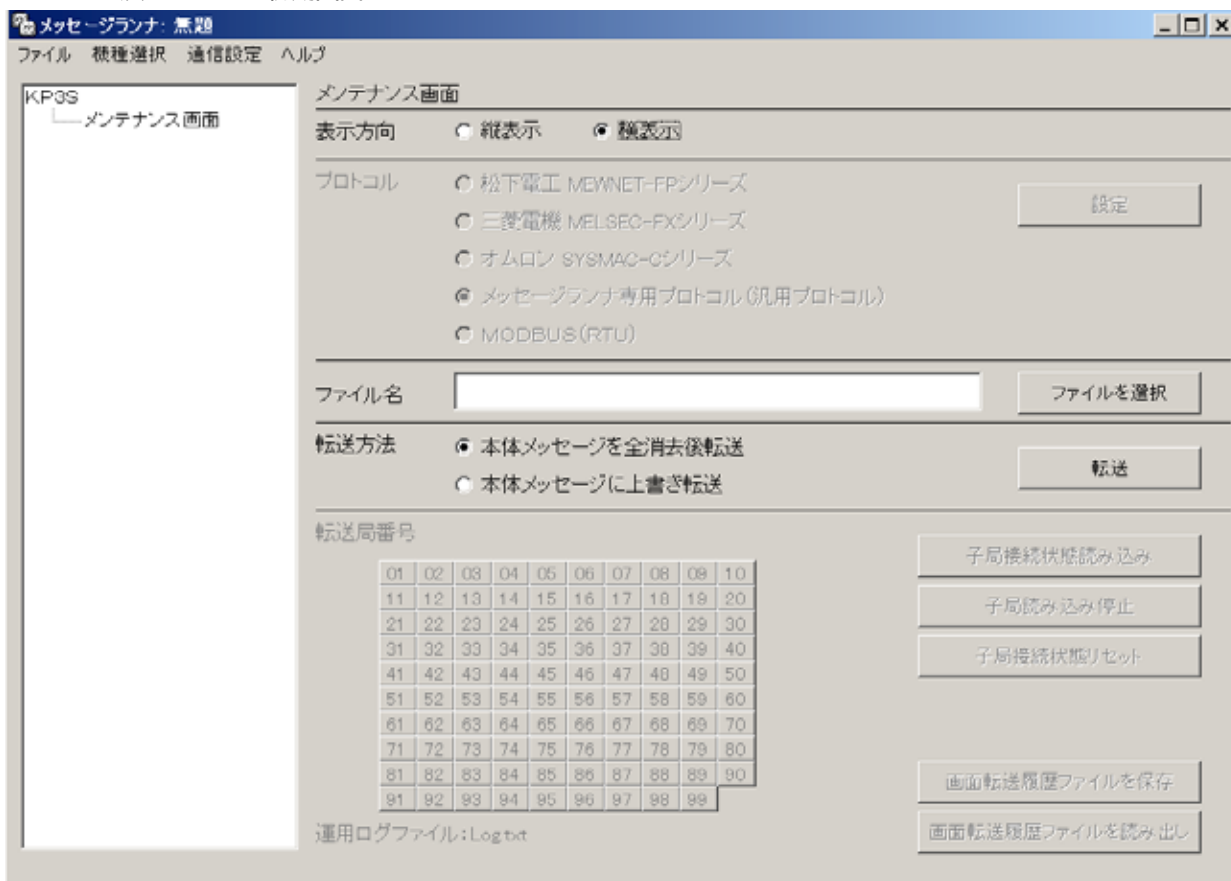
ピンの動作
(SW1)



電源投入時は、メッセージ 00 を表示します。その後 ピンがON / OFFすることによりメッセージが番号毎に切替わります。

3. 作成ソフト画面

3 - 1. KP3S及びKP3Hの初期画面



3 - 2. 各メニューボタンの名称と働き

- ・ファイル: 終了を選択すると本作成ソフトを終了することができます。
- ・機種選択: 「KP3S」「KP3H」「KP3C」「KP3R」の4種類のメッセージランナが選択出来ます。
- ・通信設定: 通信用のCOMポートをCOM1～COM15の間で選択出来ます。
- ・ヘルプ: 本作成ソフトのバージョン情報が読み出せます。

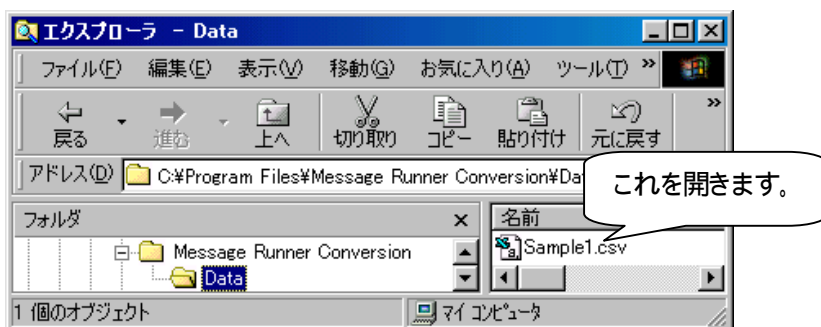
3 - 3. メンテナンス画面の各操作ボタンの名称と働き

- ・表示方向: メッセージランナ本体の表示方向を縦・横の選択をする。
(縦書き転送するcsvファイルの文字内容は各メッセージ全角, 半角とも16文字以内としてください。)
- ・ファイル選択: 本体に転送する表示作成データファイルを取り込むことができます。
- ・転送方法: 「全消去転送」「上書き転送」の選択が出来ます。

4. メッセージの作成と本体への転送について

- 4 - 1. Sample1.csvファイル(メッセージを作成するひな形ファイル)を用いExcelにてメッセージを作成します。
- 4 - 2. 通信条件(固定)
- 4 - 3. Message Runner Conversion ソフトを立ち上げます。
- 4 - 4. メッセージランナの機種を選択します。(メッセージランナKP3S、KP3H、KP3C、KP3Rより選択します。)
- 4 - 5. メッセージの縦書き、横書きを選択します。
- 4 - 6. 使用ポートの設定 COMポートを選択 通信条件を設定します。
- 4 - 7. 4 - 1で作成したメッセージのファイルをメッセージランナ本体へ転送します。

- 4 - 1. Sample1.csvファイルでのメッセージファイルの作成方法 (Sample1.csvファイル中にも記述しています。)
 Message Runner Conversion フォルダ中にある Data フォルダにあるSample1.csvファイルを開きます。



開いたSample1.csvファイルにメッセージ内容と各種属性を記入します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	メッセージNo. 01	0	3	1	0	0	0	記入方法
2	MSG02***pcs	1	3	0	0	1	1	
3	MSG03Product***OK***NG***	0	3	0	0	1	1	・No1の行
4		0	0	0	0	0	0	全部で6
5		0	0	0	0	0	0	
6		0	0	0	0	0	0	・A列にメ

- ・ 1～63行がメッセージ 01～63に対応します。(64行目が 00メッセージに対応します。)
 - ・ A列にメッセージを記入下さい。全角16文字(半角32文字)が使用できます。
 - ・ 縦表示の場合は全角16文字(半角16文字)が使用できます。(セルを適度に広げて入力ください。)
 - ・ A列にメッセージを入力しない場合でも B 列- G列セル(属性セル)には予め"0"を入力してください。
 - ・ B列にメッセージ文字の色番号を記入ください。(0:緑 1:橙)
 - ・ C列にメッセージ番号の送り速度の番号を記入ください。(0:静止 1:低速 2:中速 3:高速)
 - ・ D列にメッセージ表示時の出力有無の番号を記入ください。(0:OFF、1:ON)
 KP3Sは無効です。
 - ・ E列にメッセージ文字の点滅有無の番号を記入ください。(0:OFF、1:ON)
 KP3Sは無効です。
 - ・ F列、G列は、KP3S、KP3Hでは無効です。
- 最後に名前を付けて保存します。(このとき出来るだけ同じDataフォルダに保存ください。)

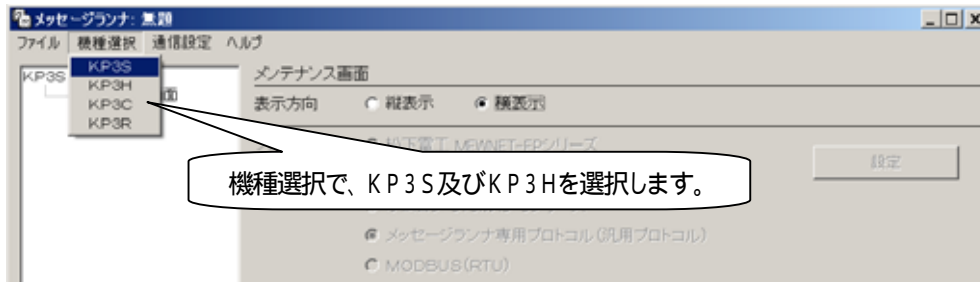
4 - 2 .通信条件 (KP3S、KP3Hは、下記通信条件固定になっています。)

- ・通信速度の設定 19200bps、
- ・データ長の設定 8ビット、
- ・パリティ有無の設定 パリティあり、
- ・パリティの種類の設定 奇数、
- ・ストップビット 1

4 - 3 .メッセージランナコンバージョンソフトの立ち上げ(パソコン上の操作を示します。)

スタート プログラム Message Runner Conversion Message Runner Conversion とクリックし本ソフトを立ち上げます。

4 - 4 .メッセージランナの機種を選択します。



AKP30系列(KP3S)、AKP31系列(KP3H)、AKP32系列(KP3C)、AK33系列(KP3R)より選択します。

4 - 5 .メッセージランナ表示方向を選択します。(メンテナンス画面において)

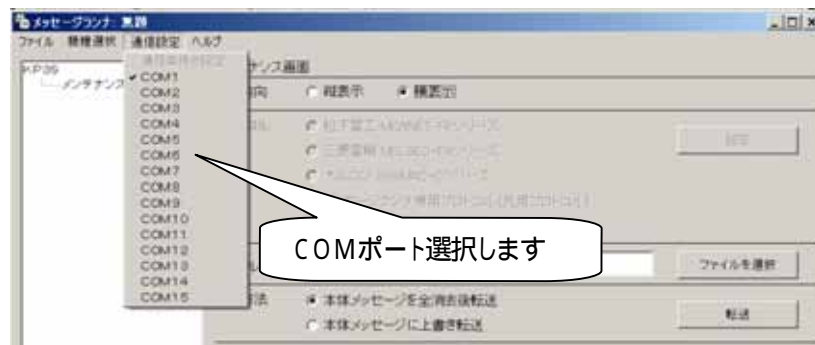


横表示、縦表示どちらかを選択します。

(今回のメッセージランナ作成ソフトAKP38153では全ての機種で縦・横表示が可能となりました。

縦書き転送するcsvファイルの文字内容は各メッセージ全角、半角とも16文字以内としてください。)

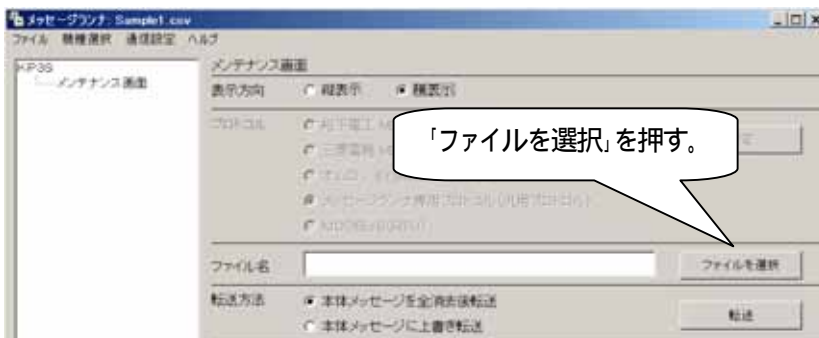
4 - 6 .使用ポートの設定 COMポートを選択 通信条件を設定します。



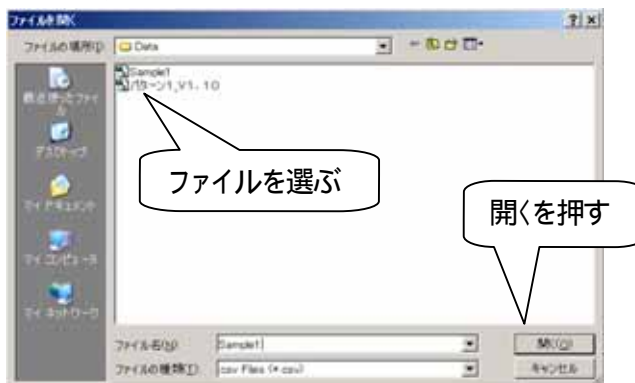
パソコンのシリアル通信ポートをCOM1からCOM15の間で設定します。シリアル通信ポートが1つしかないパソコンの場合はCOM1でそのままご使用ください。(詳しくはパソコンのマニュアルをご覧ください。)

COMポートが不明の場合は、「コントロールパネル システム デバイスマネージャ」のLPTポートにてCOM番号をご確認願います。

4 - 7. メッセージを本体へ転送します。(4 - 1. で作成したメッセージファイルをメンテナンス画面にて本体へ転送します。)

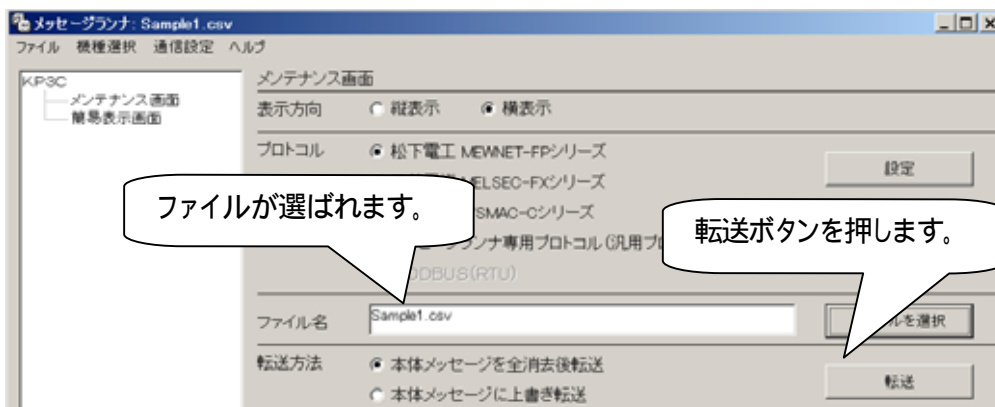


ファイル選択ボタンを押します。



4 - 1. で作成したファイルを選び、開くボタンを押します。

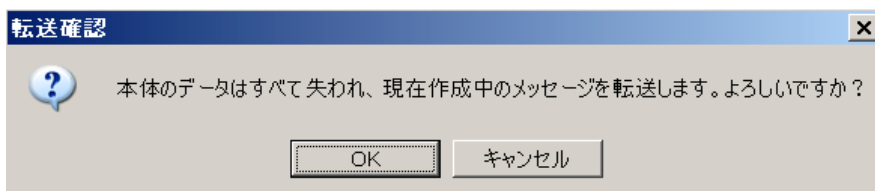
別のファイルを選び転送する場合も一旦この画面でファイルを選び、開くボタンを押してください。



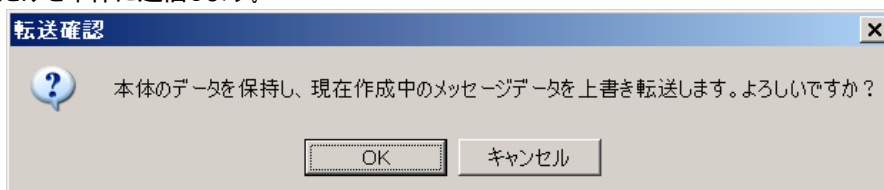
選ばれたファイル名がファイル欄に表示されます、その後転送ボタンを押します。

「本体メッセージを全消去後転送」か「本体メッセージに上書き転送」を選びOKを押します。

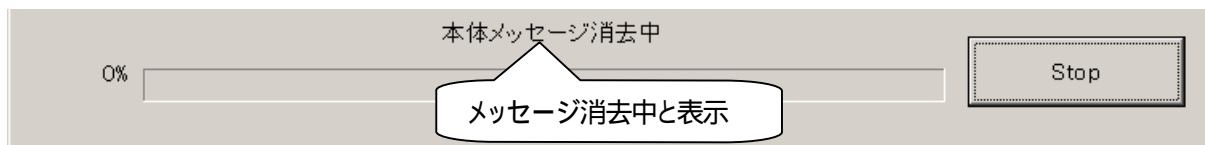
注1) 「本体メッセージを全消去後転送」は本体のメッセージを全て消去した後、メッセージを送信します。



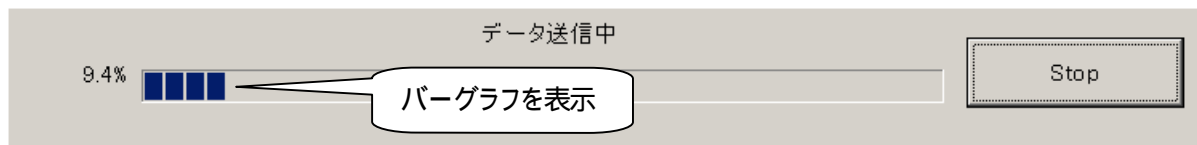
注2) 「本体メッセージに上書き転送」は現在本体のメッセージの上に4 - 1で作成したメッセージの書き込んだ部分のメッセージだけを本体に送信します。



転送確認画面でOKを押すとメッセージの転送が始まります。停止ボタンで停止できます。



「本体メッセージを全消去後転送」は「本体メッセージ消去中」を表示します。



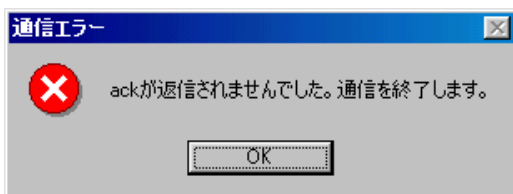
転送開始後は「データ送信中」とバーグラフに送信達成度が表示されます。

KP3Sの場合、本体側の表示は消去中、書込み中とも不定です。

KP3Hの場合、本体側の表示は消去中「Erasing」、書込中「Receive」が表示されます。



転送が正常に終了すると上図画面が現れ転送が完了します。



転送に失敗した場合通信エラー画面が出ます、通信条件等をご確認ください。

5. ヘルプメニューについて

本ソフトのバージョンを確認出来ます。